

タイ語の動詞/前置詞 คำ の用法分析： タイ語教育のための一資料

高橋 清子

1. はじめに

典型的な孤立語に分類されるタイ語の形態素は基本的にはすべて自由形態素であり、その形態は変化しない。したがってタイ語形態素の品詞は、「どのように規則的に形が変化するか」といった形態論レベルの基準では規定できず、「何と共起するか、何と共起しないか、どの統語位置に生起するか」といった統語論レベルの基準でしか規定できない (cf. อมรา ประสิทธิ์รัฐสินธุ์ (2010))。タイ語には複数の品詞に跨る形態素が多いが、それらが実際にどの品詞として使用されているかは統語的に判断できる。例えば、動詞と前置詞の機能を持つ形態素の場合、動詞としては動詞否定辞 ไม่、ณ の直後に生起し得るが、前置詞としては動詞否定辞の直後には生起し得ない。また、名詞句を伴わず単独で生起し得る統語位置にあれば（時間幅のある事象を表す、必須項のない）動詞であり、後ろに名詞句を必ず伴う統語位置にあれば（非時間的な関係性概念を表す、必須項のある）前置詞である。（動詞と前置詞の区別については、特に動詞句連続体を構成する移動動詞と経路前置詞に関して、高橋（2017）や Takahashi (2020)が詳しい。）

本稿では、動詞と前置詞の機能を持つ形態素の代表例として ตาม を取り上げる。現代タイ語の ตาม は、動詞としては「沿う/従う/後を追う/迎る (move along, follow)」といった意味で使われ、前置詞としては「～に沿って/～に従って/～通りに/～に応じて (along~, according to~)」といった意味で使われる。古い文献から伺えるかつての ตาม の使用傾向を踏まえながら、大規模電子コーパス Thai

National Corpus (TNC コーパス) を使って現代タイ語における ตาม の使用実態を調査し、ตาม はどのような意味で使われているのか、ตาม を含む構文にはどのようなタイプがあるのか、それらの構文タイプ間にはどのような関係性があるのか、どの構文タイプの使用頻度が高いのか、タイ語教育の現場で ตาม を含むどの構文をどのような順序で教えるべきか、学習者にどのような具体例を提示すべきか、といった点について考察する。本稿の分析結果をタイ語教育に活かしたい。

2. 先行研究/関連文献

2. 1. จรัสดาว อินทรทัศน (1996)

タイ語の動詞/名詞(実質語/内容語)と前置詞(機能語/文法語)は連続体を成す。動詞/名詞から前置詞への文法化の度合いは形態素ごとに差がある。

จรัสดาว อินทรทัศน(1996)は、動詞と前置詞の機能を持つ23の形態素(จาก ต่อ ตาม ถึง ประจําสู่เหนือ; ใกล้ ข้าม คล้าย ตรง เป็น ผ่าน ลอด เลย ยัง เหมือน ให้; ขึ้น เข้า ลง อยู่ ออก)に注目し、コーパスデータ(1990-1994年に出版された雑誌から無作為に選んだ記事)から実例を収集し、次の点を調べた。どの程度の割合で前置詞として使用されているのか。前置詞用法に制約はあるのか、ないのか。あれば、どのような制約があるのか。その結果に基づき、23の形態素を以下のように大きく3つのタイプに分類した。(以下、日本語訳及び英語の補足は筆者による。)

1. 前置詞として使われる率が75%以上の典型的な前置詞(จาก ต่อ ตาม ถึง ประจําสู่เหนือ)。前置詞句として文頭に持っていくことができる。[例(1)(2): จาก (去る/離れる leave, get away) ~から from~]
2. 前置詞として使われる率が26~74%で、文脈によっては典型的な前置詞として機能する(ใกล้ ข้าม คล้าย ตรง เป็น ผ่าน ลอด เลย ยัง เหมือน ให้)。抽象的な無形の意味の名詞(「ช่องว่างระหว่างวัย 世代の違い」など)が続く場合に限り、前置詞句として文頭にもっていくことができる。[例(3)(4): ข้าม (横切

る/超える/渡るcross >) ~を横切って/~を越えて/~を跨いで across~]

3. 前置詞として使われる率が 25%以下の周地的前置詞 (ขึ้น เข้า ลง อยู่ ออก)。前置詞句として文頭に持っていくことができない。抽象的な無形の意味の名詞 (「สภาวะแวดล้อม 環境」など) は後続しない。[例(5) : ลง (下る descend >) 下方の~に向かって down~]

- 1) ช่างฝีมือชาวเขาตากสินเข้มขัดสายนี้จากเส้นเงินที่เล็กละเอียด
山岳民族の熟練職人は繊細な銀の線から (from/of~) このベルトを編んだ
จากเส้นเงินที่เล็กละเอียด ช่างฝีมือชาวเขาตากสินเข้มขัดสายนี้
繊細な銀の線から (from/of~) 山岳民族の熟練職人はこのベルトを編んだ
- 2) ท่านได้แสดงกับวงดนตรีฟองน้ำจากปีพ.ศ. 2525 จนถึงปัจจุบัน
彼は仏歴 2525 年から (from~) 現在までフォンナム楽団と演じた
จากปีพ.ศ. 2525 จนถึงปัจจุบัน ท่านได้แสดงกับวงดนตรีฟองน้ำ
仏歴 2525 年から (from~) 現在まで彼はフォンナム楽団と演じた
- 3) โทรทัศน์ถ่ายทอดกีฬาข้ามทวีป
テレビは大陸を跨いで (across~) スポーツを中継する
* ข้ามทวีป โทรทัศน์ถ่ายทอดกีฬา
意図する意味：大陸を跨いで (across~) テレビはスポーツを中継する
- 4) มิตรภาพของพวกเขาที่ยังคงงามข้ามช่องว่างระหว่างวัย
彼らの友情は世代の違いを越えて (across~) なお一層進展する
ข้ามช่องว่างระหว่างวัย มิตรภาพของพวกเขาที่ยังคงงาม
世代の違いを越えて (across~) 彼らの友情はなお一層進展する
- 5) โรงงานปล่อยน้ำเสียลงแม่น้ำ
工場は汚水を下方の川に向かって (down~) 放出する
* ลงแม่น้ำ โรงงานปล่อยน้ำเสีย
意図する意味：下方の川に向かって (down~) 工場は汚水を放出する

* โรงงานปล่อยน้ำเสียลงสถานะแวดล้อม

意図する意味：工場は汚水を下方の環境に向かって (down～) 放出する

จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996)の調査結果によれば、ตาม の前置詞用法の割合は非常に高く 95.84%だった。したがって ตาม は、例(1)(2)の จาก と同様、典型的前置詞に分類される。[例(6)-(10)：ตาม (沿う/従う/後を追う/辿る move along, follow >) ～に沿って/～に従って/～通りに/～に応じて along～, according to～]

6) วงดนตรีลูกทุ่งเดินสายตามต่างจังหวัด

大衆歌謡 (田園演歌) 楽団は地方各地に沿って (along～) 巡業する
[「地方」の意味役割：位置 locative (地点 place), 具象物 concrete]

7) ร้านขายของที่ระลึกตั้งเรียงรายตามถนน

土産物店が道路に沿って (along～) 並んで建っている
[「道路」の意味役割：位置 locative (経路 path), 具象物 concrete]

8) มีการเล่นพื้นเมืองตามประเพณีดั้งเดิม

昔の風習に沿った (along～) その地方固有の玩具がある
[「風習」の意味役割：位置 locative (起点/起源 source), 抽象物 abstract]

9) เขาเลือกสอบเข้าคณะนี้ตามความคาดหวังของพ่อแม่

彼は両親の期待に沿って (along～) この学科を選んで受験した
[「期待」の意味役割：位置 locative (着点/目標 goal), 抽象物 abstract]

10) บริษัทขอรับการส่งเสริมตามระเบียบของบีไอไอ

会社は BOI (投資委員会) の規定に従って (according to～) 振興策の受領申請をする
[「規定」の意味役割：道具/手段 instrumental; 抽象物 abstract]

角括弧の中には จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996)による ตาม の項名詞句 (右隣に生起している

名詞句) の意味役割についての解釈を示した。例(6)の「地方」は具象的な「位置」の「地点」、例(7)の「道路」は具象的な「位置」の「経路」、例(8)の「風習」は抽象的な「位置」の「起点/起源」、例(9)の「期待」は抽象的な「位置」の「着点/目標」、例(10)の「規定」は抽象的な「道具/手段」である。

2. 2. Bradley (1873)

19世紀後半に編まれたタイ語辞書である Bradley (1873: 256)には ตาม の語義について(11)のような記載がある。(同辞書の個性的な記述内容については、高橋(2008)が詳しく解説している。)

11) ตาม, ไม่ขัดขวาง, ความที่ไม่ขัดกัน, ไม่ทวนกระแส, ไม่ไปในเบื้องหลังนั้น, มีเรือตามน้ำเป็นต้น

ตาม とは、妨げない、抗いがいい状態、水流に逆らわない、後方に行かない(逆行しない)。例えば「水に従う(水流に逆らわない)船がある」など。

現代タイ語では「เดินตามแม่ 母に従って歩く、歩いて母の後ろを追う」「วิ่งตามทาง 道なりに走る、走って道を辿る」など、ตาม は「誰かの後について移動する」「陸上の経路を辿って移動する」といった意味で使われることが多いが、同辞書が編纂された当時は「気流や水流などの流動体に沿ってそれに逆らわずに移動する」といった意味合いで使われることが多かったようだ。そのような意味で使用されるตาม は、「ทวน 水や風の流に逆らって移動する、逆行する」の対義語であり、「ล่อง 水や風の流に従って移動する、河川を下る」の類義語である。昔の ตาม は移動の様態 manner を表す様態動詞だったのかもしれない。そこから「誰かの後について移動する」という意味でも使われるようになり、更には「陸上の経路を辿って移動する」という意味でも使われるようになって、次第に現代タイ語の ตาม の中心的語義(「後を追う」「経路を辿る」)が確立していったのかもしれない。

「流動体に沿ってそれに逆らわずに移動する」という元々よく使われていた

ตาม の意味を知り、慣用句「ตามใจ 自分の好きなように随意に行動する、自由にする」に関する謎が解けた。ตามใจ を直訳すれば「心に沿う、心に従う」であるが、現代タイ語の ตาม の中心的語義のイメージとこの慣用句の意味とが合致せず、ずっと疑問に感じていた。

12) ตามใจ, การที่ตามน้ำใจ, เช่น คนที่ประพฤติตามใจตัว

ตามใจ とは、心の水（心持ち）に沿ってそれに逆らわないこと。例えば「振る舞いが自身の心に沿ってそれに逆らわない人（身勝手な人）」など。

慣用句「น้ำใจ 心持ち、気持ち、思いやり」は直訳すれば「心の水」である。なぜ「心の水」なのか、ずっと不思議に思っていたのだが、Bradley (1873: 256)による ตามใจ の定義(12)を読み、なるほどタイ語話者にとって心とは「漂い揺れ動く流動体を内包するもの」なのだと納得した。気持ちはその流動体に沿って動く。そう考えれば、ตาม (น้ำ) ใจ とは「心の流動体に逆らわずにその流れに素直に従う」ことだと直ちに了解される。分かり易い比喻である。

ตาม の具象的な前置詞用法（「ตามป่า 森に沿って、森一帯に」など）が含意する「繋がりや広がりを感じられる場所」といった意味にも納得し難いものを感じていた。具象的な動詞用法と具象的な前置詞用法の間にもどのような関連性があるのか、現代タイ語の ตาม の中心的語義に囚われていたため、理解できずにいた。しかし ตาม が元々「流動体に沿って動く」という意味を表す動詞であったとすれば、合点がいく。「ตามป่า 森に沿って、森一帯に」を例に取れば、「あるものが何らかの流動体（森自体がそのものを巻き込みながら広がった流動体なのかもしれない）に沿って動き、その結果として、そのものが森に沿ってあるいは森一帯に広がって存在することになった」という見立て——言い換えれば「あるものが森に沿ってあるいは森一帯に広がって存在するのは、そのものが何らかの流動体に沿って動き、拡散した結果である」という見立て——がこの表現の基盤を成している。

実際には動かない物体の動きが想定された虚構移動 *fictive motion* の一タイプである「Advent Path タイプ」(Talmy 1996, 2000)あるいは「虚構移動結果タイプ」(高橋 1998)（「突き出た煙突」「街を囲む山脈」など）の見立て方と同じである。前置詞 ตาม が含意する「あるものが各地点に沿ってあるいはその場所一帯に繋がったり広がりを持って位置する」という意味（「พนักงานจัดวางแจกันดอกไม้ตามโต๊ะ 店員は各テーブルに沿って花瓶を配置する」「ร้านขายของที่ระลึกตั้งเรียงรายตามถนน 土産物店が道路に沿って並んで建っている」など）は虚構移動の意味である——すなわち「あるものが各地点に沿ってあるいはその場所一帯に繋がったり広がりを持って存在しているのは、そのものが何らかの流動体に沿って動いた結果である」と見立てている——と言ってよいだろう。

3. コーパス調査

様々な使用場面及び談話文脈における ตาม の具体的な意味解釈には、動詞用法であれ、前置詞用法であれ、ある程度の揺らぎが見られる。ตาม が動詞として使われるときはどのような意味を表すことが多いのか、前置詞として使われるときはどうか、それぞれどのような構文で生起することが多いのか。これらの問いに答えるため、TNC コーパスを使って次のような調査を実施した。

3. 1. 共起する形態素

TNC コーパスの検索機能を用いて、ตาม の右隣（後ろ）に生起している形態素と左隣（前）に生起している形態素を調べた。生起頻度の高い（トークン数の多い）上位30位まで（表1）あるいは上位20位まで（表2）の形態素をそれぞれ表1と表2に列挙する。（但しこれらの形態素は、実際には、その後ろや前の形態素と合わさって複合語を形成している場合もある。）

表 1 : ตาม の右隣 (後ろ) の形態素 : 「ตาม～」

1	มาตรา 制度、条項	法律、學術
2	กฎหมาย 法、法律	學術、法律
3	ข้อ 項目	法律
4	ลำดับ 順序	學術
5	วรรค 法文各条の頭下げ部分、段、句	法律
6	พระราชบัญญัติ 法律	法律
7	ปกติ 通常、普通	學術
8	ระเบียบ 規定、規則、規約、規律、制度、秩序	法律
9	หลักการ 規定、原則	法律
10	ธรรมชาติ 自然、天然	學術、非學術
11	คำสั่ง 命令	法律、學術、小説
12	บทบัญญัติ 法律の規定、条項	法律
13	ประมวล 同種のものを集めた本、編集物、法典	法律
14	สมควร 然るべき	法律、學術
15	ประเพณี しきたり、慣習、慣例、風習、伝統	學術
16	ประมวลกฎหมาย 法典	法律、學術
17	ข้อบังคับ 規定、規則	法律
18	ความเป็นจริง 真実	學術、非學術
19	วาระ 回、機会、決まった時間	法律
20	ปกติ 通常、普通	新聞、雑多
21	ธรรมเนียม 習俗、習慣、慣例	非學術、小説
22	คำแนะนำ 紹介や指導の言葉、忠告、アドバイス	非學術
23	กาลเวลา 時代、時	學術
24	อริยาศัย 性格	法律

25	ฤดูกาล 季節、時季	學術, 新聞, 非學術, 雜多
26	ข้อกำหนด 規則、規定、命令	學術
27	ทัศนะ 見解、觀念	學術
28	แบบฉบับ 模範、手本	學術
29	ซอก 狭い通路、横丁、路地裏	非學術
30	กฎ 規定、掟、規則	非學術, 學術

表 2：ตาม の左隣（前）の形態素：「～ตาม」

1	ปฏิบัติ 遂行する、実行する	學術, 法律
2	เดิน 歩く	小説
3	ดำเนินการ 実施する、事を進める	法律
4	ถูกต้อง 正しい	學術
5	ความผิด 誤り	法律
6	รักษากร 臨時に代理を務める、代行する	法律
7	วิ่ง 走る	小説
8	ปฏิบัติกร 任務に従って働く	法律
9	ดำเนินงาน 仕事を実施して進める	雜多
10	เรียง 並ぶ	非學術
11	จำแนก 分ける、分配する、分類する	學術
12	คุณสมบัติ 性質、能力、資格	法律
13	ไล่ 追跡する、追い払う、追い立てる、追い詰める	小説
14	ปฏิบัติงาน 仕事を遂行する	法律
15	ดำเนินคดี 法的措置を進める	新聞
16	โมฆะ 無効	學術
17	อากร 税	法律

18	รับผิดชอบ 過ちを認める	学術
19	ตัวแปร 変数	学術
20	พนักงานเจ้าหน้าที่ 係官	法律

網掛けは、ตาม の右隣に生起する（であろうと予想される）名詞が具象的な有形の意味を表す（であろうと考えられる）ことを示している。ตาม の右隣に生起している形態素を列挙した表 1 では、網掛けされた形態素自体が ตาม の後ろに生起している有形の意味を表す名詞である。例えば、「ซอก 狭い通路、横丁、路地裏」（29 位）は有形の「経路、地区」を意味する。一方、ตาม の左隣に生起している形態素を列挙した表 2 では、網掛けされた形態素の後ろに有形の意味を表す名詞を従えた ตาม が生起することが予想される。例えば、「เดิน 歩く」（2 位）と共起する ตาม の後ろには「ทาง 道」などの有形の「経路」を表す名詞が生起することが予想される（「เดินตามทาง 道なりに歩く、歩いて道を辿る」など）。網掛けされている形態素の数は、表 1 では上位 30 位中 1 つだけ、表 2 では上位 20 位中 4 つだけである。逆から言えば、ตาม の右隣に生起する（であろうと予想される）名詞の大多数は抽象的な無形の意味を表す名詞（「習慣」「規則」「模範」「通常」「見解」「時期」など）である。

表 1 と表 2 の各段の右端には「小説 fiction、新聞 newspaper、学術 academic、非学術 non-academic、法律 law、雑多 miscellaneous」など、特にどのジャンルでの使用が顕著であるかを示した。総じてตาม は「法律」「学術」ジャンルで多く使用されていることが分かる。だからこそ ตาม は抽象的な無形の意味を表す名詞と共起することが多いのであろう（「習慣に従って」「規則に従って」「模範通りに」「通常通りに」「見解に応じて」「時期に応じて」など）。一方、ตาม の右隣に生起する（であろうと予想される）名詞が具象的な有形の意味を表す（であろうと考えられる）場合のジャンルは「小説」「非学術」が多い。「เดิน 歩く」（表 2 の 2 位）、「วิ่ง 走る」（表 2 の 7 位）、「ไล่ 追跡する」（表 2 の 13 位）は「小説」ジャンルでの

使用が多く、「ซอก 狭い通路、横丁、路地裏」（表1の29位）、「เรียง 並ぶ」（表2の10位）は「非学術」ジャンルでの使用が多い。

ตาม の右隣に生起し、有形の意味を表す名詞は「ซอก 狭い通路、横丁、路地裏」の他にもあった。次の通りである（表1から漏れた下位のもの）。「ไถ่เขา 山頂から下方へ坂になった部分」「ท้องถนน 路上、路面」「ท้องตลาด 市場、市中」「ไรฟัน 歯茎に包まれた部分」「ลูกศร 矢印」「แนวนอน 水平線」「ซูเปอร์มาร์เก็ต スーパーマーケット」「สายโลหิต 血統」「ตรอก 横丁」「ลำน้ำ 水流」「ซูเปอร์มาร์เก็ต スーパーマーケット」「แผงลอย 出店」「วัดวา 寺院」「กรอบหน้า 額の飾り」「ห้างสรรพสินค้า 百貨店」。これらの生起頻度が比較的高いジャンルは「雑多」「非学術」「新聞」である。

また、ตาม の左隣に生起し、後ろに有形の意味を表す名詞を従えた ตาม が生起することが予想される形態素は「เดิน 歩く」「วิ่ง 走る」「เรียง 並ぶ」「ไล่ 追跡する」の他にもあった。次の通りである（表2から漏れた下位のもの）。「สาวเท้า 足を速める、足早に歩く」「ลาดตระเวน 巡察する」「ย่อง 忍び足で歩く」「ก้าวเท้า 歩み、足取り」。これらの生起頻度が比較的高いジャンルは「小説」である。

3. 2. ตาม を含む構文

TNC コーパスから無作為に ตาม の用例 100 例を抽出し、ตาม を含む構文はどのようなタイプに分けられるのか、使用頻度が高いのはどのタイプか、という点について分析を試みた。その結果、構文タイプは5つの主要タイプに分類できること、そして จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996) のコーパス調査の結果と同様、「抽象的な前置詞用法の構文」での使用が圧倒的に多いことが分かった。（動詞と前置詞の区別については第1節で簡潔に述べたが、詳しくは高橋（2017）や Takahashi (2020) を参照されたい。）表3に ตาม を含む主な構文タイプとそれぞれの具体例（筆者によって変更が加えられた作例を含む）を挙げる。

表 3 : ตาม を含む構文タイプと具体例

<p>① 具象的 な動詞 用法の 構文</p>	<p>(移動の手段/様態を 表す動詞句), (移動 の経路を表す動詞 句), 動詞 ตาม (+ {経 路/起源} 名詞句), (移動の経路を表す 動詞句)</p>	<p>เขาเดินจากบ้านตาม (ทาง) ไปถึงโรงเรียน 彼は歩いて家を離れ (道) を辿って学校に 着く เขาเดินตาม (น้อง) เข้าไปในบ้าน 彼は歩いて (弟に) 従って家に入る เขาไปตาม (หมอ) มา 彼は行って (医者を) 呼んで来る</p>
<p>② 抽象的 な動詞 用法の 構文</p>	<p>動詞 ตาม と機能語句 動詞 ตาม, 直示動詞 มา {行為/認知活動} を表 す動詞, 動詞 ตาม</p>	<p>ตามด้วย ~ 次に ~ が続く ตามแต่ ~ ~ 次第だ、~ に因りけりだ ผลที่ตามมา 続いて起こる当然の結果 ปฏิบัติตาม 沿って実行する คิดตาม 沿って考える ติดตาม 随行する、追い求める、探索する</p>
<p>③ 具象的 な前置 詞用法 の構文</p>	<p>{移動/状態変化/結果 状態} を表す動詞句, 前置詞 ตาม + {経路/地 点} 名詞句</p>	<p>เสียงมาตามลม 音は風に乗って来る เรือแล่นเอื่อยๆ ไปตามลำน้ำ 船は流れに乗ってゆっくり走行する รถแล่นไปตามทางขรุขระ 車は凸凹の道に従って走行する มีการแพร่หลายบ้างเล็กน้อยตามสถานที่ต่างๆ 様々な場所に沿って多少の拡散がある ตามฝานั่งด้านในเขียนรูปภาพ 内側の壁に沿って絵画が描かれている</p>

<p>④ 抽象的 な前置 詞用法 の構文</p>	<p>{行為/過程/評価} を表 す動詞句, 前置詞 ตาม + {起源/目標/手段} 名 詞句</p>	<p>นักเรียนเขียนภาษาไทยตามหลักอักษรวิธี 生徒は正字法の原則に従ってタイ語を書く เปลี่ยนแปลงไปตามฤดูกาล 季節に応じて变化する ไม่ได้เป็นไปตามแผน 計画通りに事が進んでいない มันดีตามคติพุทธศาสนา それは仏教思想に沿って善い กำหนดค่าสูงสุดตามโปรโตคอล プロトコルに従って最高値を規定する จดทะเบียนสมรสตามที่ประมวลกฎหมายแพ่งและพาณิชย์กำหนด 民商法典が規定する通りに婚姻登録をする</p>
<p>⑤ 慣用句 用法</p>	<p>～ก็ตาม ～であろうと อย่างไรก็ตาม いずれにせよ ตามเคย 今まで通りに ตามมีตามเกิด 可能な限りにおいて ตาม (ที่เห็น) ควร, ตาม (ที่เห็น) สมควร 適切に、然るべく ตามสบาย 安楽に、寛いで ตามใจ 随意に行動する、自由にする ตามลำดับ 順番に ตามปกติ 通常通りに ตามประสา～ ～らしく、その人なりに ตามบุญตามกรรม, ตาม (ยถา) กรรม 成り行き任せの เป็นเงาตามตัว 常に離れず、常に付随して</p>	

調査の結果、前置詞ตามの後ろに生起するのは単純な名詞句に限らず、名詞化標識 nominalizer の *ที่* に導かれた名詞化節 nominalized clause である場合（「จดทะเบียนสมรสตามที่ประมวลกฎหมายแพ่งและพาณิชย์กำหนด 民商法典が規定する通りに婚姻登録をする」など）も少なくないことが明らかになった。1割程度がそのような *ที่* に導かれた名詞化節だった。しかしながら TNC コーパスの検索機能を使って ตาม の右隣（後ろ）に生起している形態素を調べたときに *ที่* は上位に出てこなかった。なぜなのかよく分からない。TNC コーパスのアノテーション（形態素の区切り方など）や検索設定の仕方が、*ที่* のような多機能語・多義語が引っかかりにくい形になっているのかもしれない。

4. 教え方試案

大きく初級、中級、上級に分けて、ตาม の意味や ตาม を含む構文についての教え方の試案を以下に簡潔に述べる。

4. 1. 初級

日常会話の習得に重きを置いた初級クラスでは、①具象的な動詞用法を中心に教える。使用頻度が高い「経路を辿って移動する」「後について移動する」といった例文だけでなく、「風（気流）に従う」「水（水流）に従う」といった例文（「พายเรือตามน้ำไปถึงที่เดิม 舟を漕いで水流に従って行き元の場所に着く」など）も提示するとよい。中級クラスで導入される③具象的な前置詞用法（「เล่นเอื่อยๆ ไปตามลำน้ำ 流れに乗ってゆっくり走行する」「มีการแพร่หลายบ้างเล็กน้อยตามสถานที่ต่างๆ 様々な場所に沿って多少の拡散がある」など）との繋がりを学習者に意識させるためである。一方、使用頻度の高い③具象的な前置詞用法（「เล่นไปตามทางขรุขระ 凸凹の道に従って走行する」など）及び④抽象的な前置詞用法（「เขียนภาษาไทยตามหลักอักษรวิธี 正字法の原則に従ってタイ語を書く」など）の意味は、使用頻度の高い①具象的な動詞用法（「เดินตามทางไป 歩いて道を辿る」など）の意味から容易に類推できるであろう。

4. 2. 中級

中級クラスから順次、②抽象的な動詞用法、③具象的な前置詞用法、④抽象的な前置詞用法へと構文タイプの幅を広げていく。②抽象的な動詞用法は構文パターンの多様性に乏しいが、使用頻度が高く慣用化あるいは複合語化が進んでいるもの（「ผลที่ตามมา 続いて起こる当然の結果」「ติดตาม 随行する、追い求める、探索する」など）を中心に提示する。使用頻度の最も高い④抽象的な前置詞用法については、多様な例文を提示して応用力を養わせる。⑤慣用句用法も、日常的によく使用されるもの（「ตามเคย 今まで通りに」「ตามสบาย 安楽に、寛いで」「ตามลำดับ 順番に」など）を教える。

4. 3. 上級

論理的に書かれた説明文や公的報告書、硬派の新聞雑誌の記事などを読みこなせるレベルを目指す上級クラスでは、そうしたジャンルでよく使われる⑤慣用句用法（「อย่างไรก็ตาม いずれにせよ」「ตามปกติ 通常通りに」「ตามควร 適切に、然るべく」など）を集中的に教える。汎用性が高いものを選んで提示する。

5. おわりに

タイ語には多機能語・多義語が多い。タイ語教育の大きな課題の一つは、有用な多機能語・多義語の用法（構文パターン）を学習者が正確かつ効率的に習得できるような教え方を確立することである。使用頻度の高い多機能語・多義語について、本稿で試したような調査を一つ一つ丁寧に実施していくことで、タイ語の構文パターンの特徴についてより理解を深めることができるのではないだろうか。タイ語の構文パターンをどう体系化して教えたらよいか、何らかのヒントが得られるかもしれない。タイ語教育を下支えする知見を提供することに繋がるであろう。

謝辞

本稿は、科研費共同研究プロジェクト「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」（番号：19H01264；代表者：松本曜）及び国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学的観点から見た日本語の音声と文法」の研究成果の一部である。

参考文献

- จรัสดาว อินทรทัศน์ [Intratrat, Charatdao]. 1996. กระบวนการที่คำกริยากลายเป็นคำบุพบทในภาษาไทย [*Grammaticalization of Verbs into Prepositions in Thai*]. Ph.D. dissertation, Chulalongkorn University.
- อมรา ประสิทธิ์รัฐสินธุ์ [Prasithratsint, Amara]. 2010. ชนิดของคำในภาษาไทย: การวิเคราะห์ทางวากยสัมพันธ์ [*Parts of Speech in Thai: A Syntactic Analysis*]. กรุงเทพฯ: โรงสำนักพิมพ์เอเอสพี.
- Bradley, Dan Beach. 1873/1971 (reprinted). *หนังสืออักษากิธานศัพท์* [*Dictionary of the Siamese Language*]. กรุงเทพฯ: โรงพิมพ์คุรุสภาลาดพร้าว.
- Takahashi, Kiyoko. 2020. Syntactic and semantic structures of Thai motion expressions. In Matsumoto, Yo and Kazuhiro Kawachi (eds.) *Broader Perspectives on Motion Event Descriptions*, Chapter 4: 105–140. Amsterdam: John Benjamins.
- Talmy, Leonard. 1996. Fictive motion in language and “ception”. In Bloom, Paul et al. (ed.) *Language and Space*, Chapter 6: 211–276. MIT Press: Cambridge.
- Talmy, Leonard. 2000. *Toward a Cognitive Semantics, Volume I: Concept Structuring Systems*, Chapter 2: 99–175. MIT Press: Cambridge.
- 高橋清子. 1998 「タイ語の虚構移動結果表現（出現経路）と潜在的虚構移動表現（範囲占有経路）の機能と意味的制約」 『日本言語学会第116回大会（慶應義塾大学，東京，1998年6月20–21日）予稿集』，136–141.
- 高橋清子. 2008. 「タイ語の辞書」石井米雄（編）『世界のことば・辞書の辞典（アジア編）』，146–164. 東京：三省堂.
- 高橋清子. 2017. 「タイ語の移動表現」松本曜（編）『移動表現の類型論』第6章: 129–158. 東京：くろしお出版.

コーパス

TNC: Thai National Corpus (Third Edition) 〈<http://www.arts.chula.ac.th/~ling/tnc3/>〉（検索日：2020年6月27日）